



クラブテーマ
ロータリアンとしての意識向上と奉仕の原点回帰
次年度創立 25 周年を迎える体制づくり

2015.12.14

週報



国際ロータリー第 2750 地区 多摩中グループ
東京武蔵国分寺ロータリークラブ

第1014回 公開例会

司会： SAA 委員会 百田 委員長



【開会点鐘】

小林 康久 会長



【ロータリーソング】

ソングリーダー：

佐藤 喜義 会員

『君が代』

『奉仕の理想』



【お客様紹介】小林 康久 会長

- ・水野 功 様 (国際 RC 第 2750 地区 ガバナー)
- ・新藤 信之 様 (同 パストガバナー)
- ・金丸 清泰 様 (同 地区幹事)
- ・吉田 純夫 様 (同 多摩中 GP グループ幹事)
- ・飯沼 克美 様 (国分寺 RC 会長)
- ・穴戸 隆介 様 (国分寺 RC 幹事)
- ・木島 常明 様 (国立 RC 会長)
- ・原田 洋示 様 (国立白うめ RC 会長)
- ・信山 勝由 様 (小金井さくら RC 会長)
- ・井澤 邦夫 様 (国分寺市 市長)
- ・松井 敏夫 様 (国分寺市教育委員会)
- ・北原 輝久 様 (国分寺市社会福祉協議会会長)

他にも多数のお客様がお見えになりました。
ご来訪ありがとうございました。



【会長の時間】

小林 康久 会長

本日は、我が東京武蔵国分寺ロータリークラブの公開例会に数多くの地域の皆様にご来場いただき大変有り難うございます。我がクラブは青少年奉仕育成を重

点に活動致しております、この度の公開例会の主催に当たりまして、「国分寺市教育委員会」の後援を頂き、本日は松井敏夫教育長もお越し頂いております、また日頃、大変お世話になっております、国際ロータリー第 2750 地区ガバナー水野功様を始め多くのロータリアンの皆様がお越し頂き心から歓迎し感謝申し上げます。

なお、本日はロータリアン以外のお客様が大変多くお越し頂いておりますので、ここでロータリークラブについてチョットお話をさせていただきます。

私たちロータリークラブ会員の目標は世界平和を目指して活動してる奉仕団体です。地域(地元)への奉仕活動はもとより日本国内を始め世界へ幅広く奉仕活動を行っております。国内ではあの東日本大震災への復興支援また、世界に向けてのポリオの撲滅運動・インドでは貧困な子ども達に教育支援の一環としてパソコンを贈呈・カンボジアには日本の教師を派遣し教師育成活動に支援しております。

今年度は特に私どもクラブ目標致しまして、青少年奉仕育成の向上に取り組み例年実施しております「少年野球大会の主催」やロケット発生の地、国分寺に相応しい「水ロケット制作体験」を支援しております。また、最近社会問題となっている、青少年の「いじめ・虐待・登校拒否」にスポットを当まして、今回子供達に寄り添う社会福祉法人・カリヨン子どもセンターを支援させて頂く事になりました。

後程、悲しい子供達の実態を本日の講師としてお迎え致しております、坪井理事長様に講演をお願い致しておりますので、最後までお付き合い頂きますよう、お願い申し上げます、以上で会長の挨拶とさせていただきます。

【来賓挨拶】



水野 功 様 (国際 RC 第 2750 地区 ガバナー)

ロータリーは地域に根ざした団体で、さまざまな奉仕活動も行っています。

今日の先生のお話は2度目です。大変重くて前の列から逃げ出したいような気持ちにもなりますが、手伝えることがたくさんあることを実感しました。

最後までお付き合いいただきますようお願いいたします。

井澤邦夫様(国分寺市長)



国分寺市でも早く子供たちを守ろうということで子供虐待防止条例を作りました。

いじめや虐待で悲惨な事件が起きてはならないと思い、学校、家庭、地域で守られるような環境を整えているところです。国分寺青少年北地区の大会では、子供たちが運動を展開し、いろいろな体験をしながら、いじめがあってはならないということを考えています。社会の宝である子供をも守っていききたい。今日の講演では、その思いを共有していただけることをお願い申し上げます。

【委員会報告】

出席委員会 / 出席報告

会員数 43名 免除 3名

有効会員数 40名

出席者 33名

メイクアップ済 3名

計 36名 出席率 90%

前々回 47% を 72% に訂正

【ニコニコボックス】

佐藤喜義 親睦活動委員

・国分寺 RC 会長・幹事

小林会長、高良幹事、この度は公開例会開催おめでとうございます。

我々も今週末、19日、20日と同会場にて障害者の方々が製作した作品を展示する「ニコニコアート展」を開催いたしますので、お時間のある方はお立ち寄り下さい。本日、坪井様のご講演楽しみにしております。

・小林康久 会長・高良茂 幹事

本日はお忙しい中、公開例会にご来場いただきありがとうございます。

・武蔵国分寺 RC 会員一同

本日の貴重なお話しを今後の活動に活かして行こうと会員一同思っております。



【卓話】

講師紹介

鈴木義明 プログラム委員長

講師

社会福祉法人カリヨン子どもセンター

理事長・弁護士 坪井節子様



<ご講演内容の概要>



カリヨンこどもセンター、明日の家のためにたくさんの家電製品を頂戴しありがとうございます。今日のお話は、苦しんでいることもたちがどう過ごしているのか、私たちには何ができるのか。皆様の思いが子供たちの中で生きるというお話をしたいとおもいます。私は東京弁護士会に子供の人権救済センターがあることを知り、子供の人権のことならできるのではないかと思い相談員になりました。しかし、どんなに思い上がりであったかすぐに分かりました。

1886年、中学校でいじめによる自殺が大きく報道されていきました。いじめ自殺が増え、不登校が年間4万人でした。教師からの暴力もありました。子供が守られるはずの場所で子供が命を落としたり傷ついたりする現実があり、電話や目の前の子供の話を聞いて打ちのめされました。もっと日本の子供は幸せだと思っていました。

どうしたらいいかわからない現場で役に立たない私が相談員を続けられないと思いましたが、他へ行ってくださいと言ったらこの子供たちはどこへ行けばいいのかという思いがありました。出会った子供たちは、私を励まして導き育ててくれました。

いじめや体罰の問題は有名私立一貫校でもありました。中学でいじめが始まり、いじめに遭わないためにどうしたらよいかを考えた時、いじめられるよりいじめめるほうが楽でした。しかし中三の2学期、自分がいじめのターゲットになり、毎日嫌がらせを受けました。そのとき彼は悩み、自分を責めましたが、君は悪くないと言ってくれる大人がいない。みんなの話を合わせて中に入れてもらおうと思ってもますますいじめられ、自分がどこにいるかわからなくなりました。自分が教室からいなくなればみんなが喜ぶと思い、学校へ行けず、親に相談しても親はそのこと背景を想像できません。「何言ってるの強くなりなさい、頑張りなさい。」といわれ、最後の命の綱が切れたと感じました。そして遺書を書いて薬を飲みました。そこで初め

て親が「もう学校へ行かなくてよい」といつてくれたのです。親の一言がどれほど重いか思い知らされます。いじめ自殺を防止するために、死ぬ勇気があったらいじめに立ち向かえと言われることがあります。いじめに立ち向かえないから死ぬのです。「子供の話を一生懸命聞いてくれる大人がいると思わなかった。」この言葉に私は救われました。そして、私にも話を聞いてあげることができると思ったのです。少しでも下支えになれるよう、命のベクトルが光のほうへ少しむかうよう、また危ないという波を乗り越えながら、少しずつ立ち上がって行けるように、ということを感じました。

いじめを受ける苦しみや、中途半端な介入が子供を苦しめることを伝えてほしいといわれました。子供言葉を携えて、届けてほしいところへ届けてあげる。弁護士の仕事は代弁者です。私たちが変わりますと言葉をいただき子供たちに伝えました。子供たちを独りぼっちにしないで話を聞いてあげる。そうすれば自分の道を歩き出していきます。

家庭内の問題も半数です。虐待数は1991年からカウントされており現在は8万数千件になっています。16歳の少女が覚せい剤取締法違反で逮捕され私は付添人になりました。小5からシンナー、中学2年になって覚せい剤を始めました。両親と3人姉妹で生活していましたが夫婦喧嘩や父の暴力があり、母は殴られ、寝ているところに八つ当たりされました。しかし、小さいうちは親にしがみつくなしくなく、自分がいけないといって自分を責め、どうしたらたたかれないか考えるだけです。小5になって、夜の街に飛び出せるようになりました。誰でもいいからそばにいてほしいという気持ちになり、先輩がこれを吸えば忘れられると言ってくれたのでシンナーを吸いました。10歳で誰にも助けてもらえなかったのです。警察に家に連れ戻されると、あんたみたいな子は生まれてこなくてもよかった、といわれました。自傷行為をして、心の痛みが体の痛みで代わりましたが、行動は他の人に向かいました。授業を邪魔して、暴走族に入って、ヤクザ、売春、覚せい剤を使ってボロボロになり、そうして一人で審判を受けるところまでできました。しかし生まれながらにして犯罪者になろうと思って生まれてきた子はいません。誰かに支えられ、寂しいときは誰かに抱きしめられたなら、このようなことにはならなかった。自分が生まれてきたことを誰も喜ばないのではなく、目の前の人は生きてほしいと思っていることを分かってほしかった。

審判の3日前に面会するとその子は私をにらみつけて言いました。「私少年院行く。もういいよ、帰ってよ。私は極道になってやる。いいから帰ってよ。」私は、極道になってほしいと思っていない、少年院は刑務所ではない、お願いだからやけにならないでと言いました。次の日も行ったが同じでした。しかし審判前日、私は言われました。「夢を見た、先輩がいい子になって帰っておいでといつてくれた。」私は試されてきました。虐待を受けてきた子供たちは大人を信じられない。一度でも辛さ知ってしまうと幾重にも心を閉ざしている。少し近寄っても信じてもらえない。自分の本性を知ったらあなたも逃げていくでしょと思っています。少なくともこの人逃げないなと思ってくれた。少年院へ行ってこようと決意してくれました。少年院から帰ってきましたが、中学を卒業していないと、この日本で生きていくのが難しいのですが、いろいろなところで一生懸命生きてきました。彼女は本当にダメという時だけ電話をくれました。生きてほしいと願っているということは覚えていてくれました。彼女は再婚し子供を一生懸命育て、公園でシンナーを吸っている子をうちに連れてきてご飯を食べさせているという話をしてくれました。

私にとって子供たちは希望の星です。この世の役に立ちたいと思ってくれている。どんな子供も見捨てる必要はない。生きてほしいと願っているからねと感じてもらおう。それで子供の生死を分ける時があるのです。18歳の子はどこへ逃げればいいのかという問題がありました。医者へ行ってカウンセリングも受けられ、児童相談所、福祉事務所と連携できる場所が欲しいと考えました。毎年、1作ずつ、出会ってきた子供たちの現実を伝えるため1994年からお芝居を作ってきました。

こんな子供シェルターがあったらいいなということで、カリヨンこどもセンターというお芝居を作りました。そしたら、本当に作ろうよという支援をいただき侃々諤々の議論をしながら作り上げました。そして、24時間スタッフが手作りの対応をして、1から2か月間守ってもらうということが可能になりました。

NPOから社会福祉法人となり12年目に320名を超えました。15から19歳の男女。割合は1対3。家庭から直接逃げてくる子供たちは、数日は様子を見せています。そして、きっと見捨てるに違いないと思っています。最初は本当にへとへとにされ、みんな子供の人生に対して無力だと思います。だからスクラムを組もう、抱きしめ続けようと思します。それでせいいっぱ

いです。しかし、子供のためし行為に対応していると、ある時心をすこし開くときがあるのです。「あなたの命が大事だから」というと「嘘だろう」といいながらうれしそうな顔をしてくれます。

有名高校や大学からも来ます。頭のいい子も逃げてきます。教育虐待という問題があります。大人を振り回すのが上手な子もいます。「なんで出て行けと言わないの?」と聞かれた時がありました。私は言います。「出ていてと言ったら死ぬということじゃん。口が裂けても出ていと言わないよ。」そう言ったらその子は泣き出しました。親は私を「死ぬ」といって育ててきた、「出て行けと言わない」と言ってくれたの初めてだよと言って心を開いてくれました。どんな子供の中にも、小さい炎が燃えています。本当は生きていきたいのです。

この3月から、すぐに働けない子供が入れる明日の家がオープンします。今回は家電製品などご支援いただきました。子供シェルターが全国に14法人となります。そのような子供たちがいたらシェルターがあることを教えてあげてほしいと思います。



以上



【謝辞・目録贈呈】
小林 康久 会長



【閉会点鐘】
小林 康久 会長

東京武蔵国分寺ロータリークラブ

会長:小林 康久 幹事:高良 茂

クラブ広報・会報委員会 委員長:村谷 晃司 副委員長:佐藤 喜義 委員:尾崎 幸信 櫻井 健生 鍋木 孝和

例会場 国分寺市南町3-20-3 国分寺ターミナルビル8F Lサロン飛鳥

事務局 国分寺市南町3-20-3 国分寺ターミナルビル9F